

## 校長のひとり言

## ■第2弾 7・8月号に続く

## ■演題「思うは拓く」講師 株式会社植松電機・専務取締役 植松 努

「楽そうな方」ではなく「楽しそうな方」を選ぶ。

僕は中学高校と、赤点の帝王でした。でも大学で勉強すべきことは、小学校の頃から好きだったことなので好成績でした。僕は好きなことのおかげで救われたような気がします。

大学を卒業した後、名古屋にある飛行機とロケットを開発する会社に入ることができました。

初めて職場を訪ねた時「このフロアは、堀越二郎が働いていたところなんだよ」と言われました。憧れていたゼロ戦の設計者と同じフロアで仕事ができるなんて、まさに僕の母さんが言っていたとおり「思うは拓く」だと思いました。

僕は仕事が好きでした。夢がかなったと思いました。でも、5年半で辞めました。

なぜなら飛行機に何にも興味のない人が、どんどん会社に入ってきたからです。彼らは新しい仕事の依頼がくるたびに、「やったことがないからできません」「勉強してないからできません」といって断り続けました。

僕が「なんで『できない』ばかり言うの?」と聞いてみたら、自信たっぷりに「『自分には無理です』とっておけば、楽ができるから」と言うのです。

僕はせっかくのチャンスだから、いい飛行機を作りたいのです。だから頑張ります。でも頑張れば頑張るほど、どんどん空回りして、周りから浮いていきます。「よくやるわ」とさんざん陰口たたかれました。やがて仕事ができなくなってきて、その会社を辞めることになってしまいました。そのうち、その部門はなくなり、そして楽をしていた人たちはみんな仕事を失いました。

やっぱり楽はしない方がいいと思いました。楽をすると無能になるからです。考えてみてください。能力と言うのは、失敗するか成功するか「経験」によって身に付きます。「楽をする」ということは、つまり「その経験を避ける」と言うことです。だからずっと楽をしていたら、自動的に無能になって、誰からも見向きもされなくなります。

もったいないです。人生の価値は、「誰にほめられるか?いくらもらえるか?」では決まりません。人生の価値は、人生の時間を使って得た自分自身の経験で決まります。

人生なんて一回しかない。それなのに最短コースを選んだら、一瞬で終わってしまいます。いっぱい寄り道した方が得だと思いませんか、いっぱい人に出会った方がいいです。一生懸命いろんな経験をしてほしいです。もし何かに迷ったときには「自分は楽を選んでいないだろうか」だけ気をつければいい。そうしたらきっと間違えないで、今より前に進むことができると思います。

植松さんは「迷った時は、大変そうな方を選ぼう。」とお話しされたが、勇気も必要だし度胸もないと難しい判断だろうと正直に思った。勇気ある決断が人生を豊かにすることにつながるのだろうと感じた。

全体のお話は「思い描く」「思い込む」「思いやる」「思い切る」「思い続ける」でした。最後に「思うは拓く」と結ばれた。

貴重な体験やいろいろなことに取り組みされている方々からお話を聞かせていただくことはすごく勉強になる。直接お話を聞くチャンスがない場合は、書物を通じて学ぶこともできる。時間をつくって図書館に通うことをお勧めしたい。

## 編 | 集 | 後 | 記

暑くて熱かったこの夏も終わろうとしています。この夏は「RIO オリンピック」の熱い戦いに「感動」を覚えた人も多かったと思います。

「感動」とは国語辞典では「美しいものやすばらしいことに接して強い印象を受け、心を奪われること」と説明されていますが、私は先日久しぶりに“サウンドオブミュージック”という映画を見ました。中学生の頃、音楽のすばらしさに「感動」し、繰り返し何十回も見た映画です。あれから〇〇年経過しましたが、映画の同じシーンでまた「感動」し、涙しました…。

さあ、後期が始まります。「感動」を受け取るアンテナもしっかりと広げ、皆さんも心を耕してみませんか?平成28年度を「感動」的に締めくくれるように!